

令和6年4月5日
(令和6年6月14日一部修正)

令和6年度 学校経営方針

江戸川区立鹿骨中学校
校長 大谷 雅也

<鹿骨中学校 教育目標>

- みずから学び、考えて 行動する生徒
- 思いやりのある豊かな心をもった生徒
- 健康で明るく、勤労と責任を重んじる生徒

<目指す教育>

「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」(中学校学習指導要領総則 前文より)

<目指す生徒像>

学び方を身に付けた生徒

何をどのように学ぶかを決定することに積極的に関与し、高い学習意欲と学習の目標をもって生涯を通して使うことのできる「学び方」を身に付けた生徒

<目指す学校>

共に磨き合い、みんなが幸せになれる学校

～一人一人を大切にする学校～

<令和6年度教育指針>

「新しい学びをひらく授業」

「一人一人を大切にした教育活動」

「学び合い、協働できる学級」

◎共磨き

「人は、人と何かをやり遂げたときに大きな成長を手に入れます」

- ・ 学校は、対話と体験を通して、多様な他者と共に磨き合うことができる
ところ です。

○ 対話

「対話の意味はそのプロセスにある」

- ・ 多様な他者との対話を通して、自分の考えをもち、他者の考えを知り、気づきを得ることができる。

対話の定義

- 対等な人間関係であること
- 双方から話を往復させる
- 感情や主観を排除しない
- 勝ち負けを決めない
- 結論を出さない

○ 体験

「為すことで学ぶ」

- ・ リアルを大切にし、自分でやってみる、自分の目で見る、本物に触れることが成長の糧となります。

<一人一人の成長>

○ 個別最適な学び

「一人一人の成長は、スピードもプロセスも異なる」

- ・ 学校は、多様な個性に触れながら、「違い」を認めて自らの個性を伸長するところではなくてはなりません。個別最適な学びを追求します。

○ 主体的・対話的で深い学び

「鹿骨授業スタンダード(SJS)」と「あじみこし」

- ・ 「本時の目標」「学習の流れ」を明確にして授業を行うことで、「わかる授業」が実現し、授業を大切にする態度が生徒に浸透しつつあります。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を進め、「対話的」な学習活動を取り入れ、思考力、判断力、表現力の向上を図ります。
- ・ 「振り返り」に取り組ませることで、より「深い学び」の実現を図っていきます。

<教育目標を具現化するために>

I 令和6年度の重点目標

○ 重点目標1

- ・ 鹿骨授業スタンダード(SJS)、あじみこしの実践を通して授業改善を推進し、「わかる授業」「個別最適化」を実現し、学力向上を図る

○ 重点目標2

- ・ 学び合い、協働できる「学級」の実現を図り、授業を大切にし、思いやりのある生徒の育成を図る

○ 重点目標3

- ・ 対話と体験の充実を図り、外部教育資源を活用した授業と取組を展開し、共育の実現を図る

2 令和6年度の重点取組

○ 江戸川区教育課題実践推進校

- ・ 推進校の指定を受けて、授業改善の取り組みを振り返り、整理をしつつ、「学び方を身に付けた生徒」の育成について研究し、11月に発表を行う

○ 授業改善の推進

- ・ 単元指導評価計画の様式統一、外部教育資源(人材)の活用、主体的・対話的で深い学びの研究授業を行う

○ 学級経営方針の作成

- ・ 学校経営方針、学年経営方針に基づき、学級担任は学級経営方針を作成し、公表する
- ・ さらに学級指導、学級活動と関連づけて指導できるように特別活動の年間計画、道徳科の年間計画、総合的な学習の時間(含む、読書科)の年間計画を共有し、HP上に公表する

○ 外部教育資源の活用

- ・ 各教科、領域で外部人材等の活用の授業案を作成し、年間指導計画及び単元指導評価計画に位置づける。
- ・ 実施にあたっては、外部人材等を活用した授業の前後の授業計画を充実させ、育てる資質・能力を明確にするとともに授業のねらいを外部人材等と共有する

3 教育課程全体に係る方針

○ 人権を尊重する教育

- ・ 人間尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境等の価値観を、全教育活動を通じて育成する。人権尊重の精神を根底におい

て教育活動を行う

- 心の教育の推進
 - ・ 全ての教育活動を通して、思いやりと自立の心を育てる。(寛容さとアイデンティティの育成)
 - ・ 感謝の心を育成するため、道徳科、特別活動、ボランティア活動の充実を図る

- 感染防止を踏まえた教育課程の編成と実施
 - ・ 感染症の拡大防止に努め、計画と指導方法の工夫により教育目標を達成する

- チーム鹿骨の教育
 - ・ 教職員、保護者、地域社会がチームとなり、生徒の成長を支える教育活動を行う

4 学力向上

- 「主体的・対話的で深い学び」
 - ・ 授業を学力向上の柱とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る学習指導を行う
 - ・ 対話的な学習活動を重視し、生徒が主体的に取り組む授業の充実を図る

- 「鹿骨授業スタンダード(SJS)」
 - ・ 授業の目標、学習活動の流れ、振り返りという基本的な授業構造を「鹿骨授業スタンダード(SJS)」として統一する
 - ・ 生徒が「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何を学んだのか」をわかる授業を行う

- 「学び方を身に付ける学習評価」
 - ・ ポートフォリオを重視して、学習を振り返り、生徒が見通しをもって粘り強く学習に取り組めるよう適切な学習評価を行う(アセスメントとしての学習評価)

- ・ 生徒の習熟度に応じた学習指導のための学習評価を行う（指導と評価の一体化としての学習評価）
- 「外部の教育資源の活用」
 - ・ 地域社会の人的資源を活用した授業を行う
外部人材の活用、専門性を生かした指導
 - ・ 物的資源を生かした授業を行う
行政施策等を活用し、機会と素材を生かした指導
 - ・ 環境的教育資源を生かした授業を行う
自然、施設、地域環境を生かした指導

5 生活指導

- 基本的な生活習慣の定着を図る
 - ・ 「あじみこし」あいさつ、時間、身だしなみ、言葉づかい、姿勢を指導する
- 学級指導・学級活動を充実させる
 - ・ 席替えやグルーピング、学級目標の設定や話し合い活動の充実を図り、よりよい集団をつくり、協働できる力を育成する
- 集団生活の基本的な規律を自ら理解し、自ら行動できるよう指導する
 - ・ 集団のきまりの「なぜ」を考え、選択して行動できるように学級活動等を重視する
- 暴力・いじめゼロを目指す
 - ・ いかなる暴力もなくし、いじめを早期に発見し、解決まで継続的に指導、支援する
- ICTに係るモラルとリテラシーの育成を図る
 - ・ ICT授業規律やSNSルールなどを策定して、生徒、保護者と共有し、適切な判断と行動ができるようにする
- 安全教育

- ・ 安全教育は「命の授業」と捉え、重点とする
- ・ 災害安全では日常的な指導を基本として、地域や関係機関と連携した防災教育を行う
- ・ 生活安全・交通安全では、生徒が自ら危険を予測し、安全に生活できる力を育成する

6 特別支援教育

全ての生徒が安全で、安心して学ぶことができる学校を実現する。
特別支援教育委員会を設置して、組織的に特別支援教育を推進する。

○ 不登校ゼロを目指す

- ・ 不登校生徒を出さない指導と社会的自立を目指す指導を行う
- ・ 教育相談体制の充実を図る

○ 特別支援教室

- ・ 発達障害があり、生きづらさを感じている生徒に寄り添い、自立できるコミュニケーションの指導を行う。巡回教員と特別支援教室専門員との連携を強化し、全教職員で自立活動等の指導を行う

○ 関係機関との組織的連携

- ・ スクールカウンセラーや関係機関との連携を図り、総合的な体制で生徒を支援する

7 生き方教育

本物に触れる体験的な学習の充実を図り、「生き方」を身に付けさせる

○ 特別活動(集団を生かした教育活動)

- ・ 学校行事では、育てたい力を明確にして、「学び」のある体験的、協働的な学習を行う
- ・ 儀式的行事では、学校生活の節目に自己を振り返るとともに、所属感を育て、伝統的な生活様式を学習させる

○ 総合的な学習の時間(個人の探究的な学習)

- ・ 総合的な学習の時間の全校テーマを「生き方」として、授業を行う
職場体験(チャレンジ・ザ・ドリーム)では、多様な事業所の協力を得

て、対話的で体験的な学習を行う

- ・ 読書科では、読書に親しむ態度を育成するとともに、探究的な学習を通じて図書の活用の充実を図る

○ 道徳教育

- ・ 「特別な教科道徳」を道徳教育の要とする
- ・ 道徳科の授業で「対話する道徳」により道徳的価値観と実践力の育成を図る
- ・ ポートフォリオ評価を重視して、生徒が自らの成長を実感できる評価を行う

○ ボランティア活動（社会生活と関連する教育活動）

- ・ 「花の街ししぼね」花いっぱい運動を中心に据えたボランティア活動を展開する
- ・ 大掃除、地域清掃をボランティアで行い、進んで学校や地域に貢献する態度を育てる
- ・ 地域と連携したボランティア活動を実施する

○ 体力向上、食育

- ・ 自らの健康課題を把握させ、健康をつくり上げる力を育てる
- ・ 夢中になれることを見つけ、生きがいを育てる
- ・ 安全でおいしく給食を実施し、食育の充実を図る

8 信頼される学校づくり

約束した教育活動をやりきることが信頼を得る

<開かれた学校>

○ 広報活動

- ・ 保護者・地域の教育課程の理解推進のため広報活動の工夫と充実を図る

○ 学校評価

- ・ 生徒学習アンケート、自己評価、学校関係者評価の計画的な実施と分析結果を学校経営に生かす。

<生徒・保護者・地域>

- 生徒理解、保護者の願い
 - ・ 全ての教育活動で生徒理解に努め、生徒理解に基づく指導を徹底する。そのために保護者と緊密な連絡相談を行い、保護者の願いを受け止めて指導に当たる

<チーム鹿骨>

- 教職員のチーム・保護者・社会とのチーム
 - ・ 連絡・報告・相談を徹底し、教職員がチームとして共通行動による指導を行う
 - ・ 学校と保護者・地域が一体となった共育を推進する

- 教育環境の整備
 - ・ きれいな学校（清掃の行き届いた学校）は充実した教育活動の第一歩である

- 働き方改革
 - ・ 教職員が職責を果たせる環境を整える
 - ・ 職員室の職場環境の整理整頓を心掛ける
 - ・ ジョブ型の役割分担を行い、職務を明確にする

- 学習環境の整備
 - ・ ユニバーサルデザインを取り入れ、教材教具の整備を日常的に行う

- 安全な学校生活の環境
 - ・ 施設の安全、災害対策、物品の点検を日常的に行い、定期点検を行う

9 研修

研修の日常化を図り、学び続ける教職員集団をつくる

○ 人権研修

- ・ 人権尊重の理念と人権課題についての正しい理解に基づいて教育に当たる
- ・ 教職員の人権意識の向上を図る

○ 服務研修

- ・ 年 4 回の服務研修を要とし、教職の使命と自覚をもつ
- ・ 服務研修の日常化を図り、相互に高め合う教職員チームをつくる

○ 授業改善研修

- ・ 鹿骨授業スタンダード(SJS)に全教員で取り組み、日々の授業実践と相互参観を通して、授業改善を図る
- ・ 全教員が年 1 回以上の研究授業を行い、授業力向上に取り組む
- ・ 「一人 1 実践」で外部人材を活用した授業を行い、カリキュラムマネジメント力の向上を図る
- ・ 自己研鑽を心掛け、学び合う教員集団をつくる

○ 生徒理解研修

- ・ 特別支援教育、特に特別支援教室の運営と発達障害について研修を行う
- ・ QU 活用研修を行う